

山口情報芸術センター [YCAM] : 企画展

スティーヴ・パクストン

## 「Phantom Exhibition～背骨のためのマテリアル」

【映像インスタレーション＋ダンスデモンストレーション＋レクチャー＋ポストトーク＋ギャラリーツアー＋映像・資料展示】

2009年5月24日(日)－8月31日(月) 10:00－19:00

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB、2Fギャラリー、ホワイエ 入場無料



## 合気道、ヨガ、ヴィパッサナー瞑想など、アジアの身体技法をダンスに取り入れるスティーヴ・パクストン。その身体思想と作品を紹介する展覧会。

YCAMでは、34年ぶりの来日を果たすアメリカ・ポスト・モダンダンスを代表するダンサー／振付家、スティーヴ・パクストンの新作映像インスタレーションを中心に、作家によるデモンストレーション、専門家を招いたレクチャーなどによって、パクストンの身体における思想を総合的に紹介する展覧会を開催します。現在のダンスシーンに多大な影響を与えるパクストンのメソッドと独自の表現を、映像インスタレーションで体感するとともに、さまざまなイベントによって読みとく本展を通じ、パクストンの活動を1960年代からの社会的、歴史的な脈から紹介するとともに、メディア表現によって発見される新たな身体と空間の現在形を考察します。



### 空間を全面に覆う映像に身をゆだね、新たな身体感覚を発見する

従来のバレエやダンスから身体を解放し、独自のダンス表現を開拓してきたスティーヴ・パクストン。70年代には新しいダンス概念である即興形式「コンタクト・インプロヴィゼーション」<sup>(注)</sup>を提唱するなど、その活動は、コンテンポラリーダンスに画期的な技法をもたらしています。本展では、パクストンの集大成として1986年から取り組んでいるメソッド「Material for the Spine (背骨のためのマテリアル)」から展開された映像インスタレーションを日本初公開。展示空間を取り囲む5面の大型スクリーンには、メソッドに基づき身体を動かすパクストンやパフォーマーの身体映像、CGによるダンスシミュレーション、そして詩的なリズムを秘めた解説ナレーションが映し出され、巨大な映像のなかで観客は身体と重力の関係性を全身で感受します。

■ 内覧会 5月23日(土) 15:30－

ウェブサイト: <http://phantomexhibition.ycam.jp/>

主催: 財団法人 山口市文化振興財団

後援: 山口市、山口市教育委員会

共催: DANCE DOCUMENTS JAPAN COMMITTEE (DDJC)

助成: 日米友好基金、Asian Cultural Council、財団法人 セゾン文化財団

企画: 山口情報芸術センター [YCAM]

技術協力: YCAM InterLab

キュレーター: 阿部一直 (YCAM)

デザインディレクション: 川上 俊 (artless)

(注) コンタクト・インプロヴィゼーション: ダンスの即興形式の一つ。他者との接触を通して動かし、動かされながら、そこに生じる合力に身を委ねることで、既存のダンスイメージを超えた新しい動きの経験を可能とするダンスおよびコミュニケーション技法。

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は下記までご連絡ください。

お問い合わせ 広報担当: 廣田

〒753-0075 山口県山口市中園町7-7 TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216

e-mail: [information@ycam.jp](mailto:information@ycam.jp) <http://www.ycam.jp/>



山口情報芸術センター  
Yamaguchi Center for Arts and Media

# スティーヴ・パクストン

## 「Phantom Exhibition～背骨のためのマテリアル」

身体のあらゆる感覚と行為の枠組みの問い直し、  
コンテンポラリーダンスとアートの融合したパクストンの身体の思想をここに紹介。

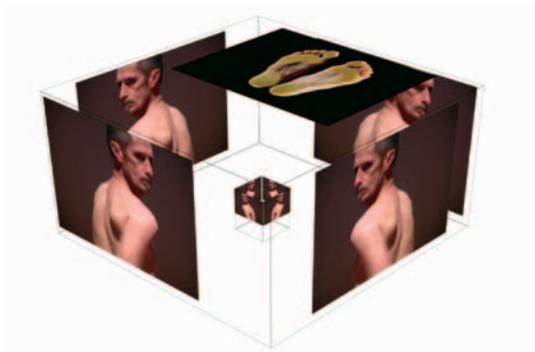
### 映像インスタレーション

#### 「Phantom Exhibition (ファントム・エキシビション)」

スティーヴ・パクストン、フローレンス・コリン+バプティスト・アンドリアン (Contredanse)

制作: Contredanse 共同制作: Bozar Dance、Charleroi/danses 協力: WBI

身体を中心を探求するためのメソッドとしてパクストンが1986年から取り組む「背骨のためのマテリアル」。このメソッドに基づいて自らが映像のモデルとなり身体を動かすパクストンやパフォーマンスの姿、それらをCGによって解析した映像が5面の大型スクリーンに映し出されます。空間全面を覆う映像のなかで、観客は身体と重力の関係性、身体の内部と外部、骨格の感覚を全身で感受し、新たな身体感覚に出会うことができます。パクストンとベルギーの2名の映像アーティストによって制作された本作が、YCAMのスタジオ機能と技術を活かし、ほかでは体験できないハイクオリティな空間表現として実現します。今年4月にベルギーで初公開されたばかりの話題の新作が、YCAMに登場します。(日本公開はYCAMのみとなります)



Phantom Exhibition,  
Steve Paxton with Florence Corin and Baptiste Andrien (Contredanse).  
Photo: Contredanse (Florence Corin and Baptiste Andrien)



### ダンスデモンストレーション

5月24日(日) 13:00-14:30 (開場は30分前)

会場: スタジオB

出演: スティーヴ・パクストン

今回の展示会のなかでも注目のイベント。展示作品「Phantom Exhibition」の空間で、作家本人がダンスデモンストレーションをおこないます。パクストンの映像と生身の身体が重なる特別な瞬間をお見逃しなく。

料金: 1,000円 [限定70名] (当日券のみ)

\*公演当日10:00より発売開始

\*当日はイベント開催のため、展示作品「Phantom Exhibition」の一般公開は15:00からとなります。

### レクチャー + ポストトーク

5月24日(日) 15:00-17:00

会場: ホワイエ

ゲスト: スティーヴ・パクストン

講師/モデレータ: 外山紀久子(埼玉大学教授/現代舞踊史)

アート、ダンス、音楽などジャンルを超えた実験的な活動が展開された1950~60年代アメリカの社会背景を踏まえ、スティーヴ・パクストンの活動とその意義を解説。さらに、ブラックマウンテンカレッジ、インターメディアなど、現在のアートシーン、コンテンポラリーダンスに至るまでの重要なキーワードとともに、その系譜をたどるレクチャーを開催。作家本人によるアーティストトークもあります。

参加無料 \*逐語通訳あり

# Material for the Spine

背骨のためのマテリアル

スティーヴ・パクストン 2007年8月

## スティーヴ・パクストン / Steve Paxton

ダンサー／振付家。1939年アメリカ、アリゾナ州フェニックス生まれ。

現在はヴァーモント州に住み、有機農業を営みながら、アメリカとヨーロッパを中心にダンスと振付の創作活動、講義、公演をおこなっている。マーサ・グレアムとホセ・リモンから現代舞踊を学んだ後、バレエ、合気道、ヨガ、太極拳、ヴィパッサナー瞑想などを修得。1961-65年マース・カニングハム舞踊団のダンサーとして世界各地で公演。60年代ジャドソン・ダンス・シアター、70年代グランド・ユニオン、80年代タッチダウン・ダンス（視覚障害者のためのダンス＝英国）の創始メンバーとして活躍。1972年ニューヨークでコンタクト・インプロヴィゼーション（C.I.）\*を発表。現在C.I.は世界各国で実践され、その国際的なネットワークとして定期刊行物『Contact Quarterly』（パクストンは共同編集者／執筆者）が発行されている。全米芸術基金（NEA）、ロックフェラー基金、グッゲンハイム・フェローシップなど助成多数。1987年と1999年にニューヨークのベッシー賞（ダンス&パフォーマンス部門）受賞。近年では、ミハエル・バリニコフ、トリシャ・ブラウン、リサ・ネルソン等とコラボレーションを発表。1986年以降、C.I.をベースにした「Material for the Spine」を新たなメソッドとして展開し、2008年にはベルギー Contredanseより『Material for the Spine, a movement study』（DVD-ROM）を出版。C.I.を手がけてから現在に至る約40年間、文化としてのダンスの創作と、即興の「実相」の探究を続けている。

「Material for the Spine（背骨のためのマテリアル）」は1986年に始められた、シンプルなダンスのためのシステムです。それは頭や背骨、骨盤など骨の感覚に基づいたシステムであり、骨の感覚から形成される自己イメージに沿って展開されてゆきます。つまり、身体の中心を探求するためのシステムなのです。

その素材（マテリアル）は、パクストンが考案したコンタクト・インプロヴィゼーション（C.I.）という即興形式の実践や学習法から抽出されたものです。そのためクラスでは、C.I.も経験することになります。ただ、C.I.には他者とのコミュニケーションや遊びなどの要素が多く含まれますが、「Material for the Spine」では、呼吸や動きの精確さに重点が置かれています。そのため、より具体的な技術を追求するものであり、同時に瞑想的なソロの実践であるといえます。

他のダンステクニックとの関係性にも気がつくことでしょう。中でも、通常のテクニックではあまり指摘されることのない骨盤の動きについて、このシステムでは多くのことを学びます。動きは背骨に始まり、股関節、大腿、肩甲骨、そして腕へと広げられてゆきます。身体の中心を探求する活動は、全身を取りこまずにはいません。

（パクストンによるクラス説明より）



## ギャラリーツアー

6月7日（日）、14日（日）、27日（土）、28日（日）  
7月5日（日）、11日（土）、18日（土）、25日（土）、26日（日）  
8月1日（土）、2日（日）、29日（土）、30日（日）  
各回 14:00-15:00（8月29日、30日のみ 11:00-12:00）

レクチャーと作品鑑賞により、コンテンポラリーダンスの基礎知識から本展のテーマまでを紹介します。YCAM 専門スタッフとともに作品を体験しながら、本展の鑑賞ポイントを発見することができます。

参加無料 \*当日30分前までにYCAM1Fチケットインフォメーションまでお申し込みください。

## 映像・資料展示

会期中 会場：ホワイエ、2Fギャラリー

スティーヴ・パクストンとその身体メソッドである「Material for the Spine」について読みとく映像ドキュメントを上映。2008年刊行の最新DVD-ROMと1970年代の映像資料から、パクストンの活動の軌跡をたどります。

鑑賞無料

\*この企画は、全国の芸術機関、施設が連動して開催する「Touch, Contact, Bones Steve Paxton + Lisa Nelson Dance Project 2009.4.26-8.31」の一環としておこなわれます。

主催：DANCE DOCUMENTS JAPAN COMMITTEE (DDJC)

共催：京都の暑い夏事務局、株式会社ワールアートセンター、東京藝術大学大学院映像研究科、近畿大学国際人文科学研究所、早稲田大学演劇博物館グローバルCOE舞踊研究コース、財団法人山口市文化振興財団

協力：公立大学法人青森公立大学、国際芸術センター青森AIR実行委員会（予定）

助成：日米友好基金、Asian Cultural Council、財団法人セゾン文化財団

スティーヴ・パクストン展の開催にあわせ、YCAMが取り組む〈アート + メディア + 身体表現〉のテーマを探求するため、新鋭2組のアーティストの作品による企画展を開催します。メディア表現によって新たに発見され、作品のなかで積極的に表現される「自己の身体」と「イメージとしての身体」。回帰される二重の身体性＝「インターイメージとしての身体」に注目しながら、今日的なメディアテクノロジーと身体の関係性や可能性について考えます。

## ■ 作品展示



### scopic measure #09

**newClear 「skinslides」** (新作インスタレーション作品) [YCAM委嘱作品]

会場：ホワイエ

「ダンサーを永久保存するインターフェイス」として考案されたインタラクティブインスタレーション。床面のスクリーン3面には、独自の数的な規則に従って動くダンサーと床との接触面が生々しく映し出されています。鑑賞者がスクリーンの上に立つと、その重心移動により、作品空間の音や照明、映像が変化します。ダンサーと観客の身体が出会い、身体がもたらす空間性を意識することができます。

### newClear (ニュークリア)

プロジェクトに応じて、様々なジャンルのクリエイターが集まるアートユニット。今回は、ベジャール・バレエ・ローザヌ、リヨンオペラ座バレエ団、フランクフルトバレエ団などで活躍した経験もあるイタリア出身のダンサー／振付家、アレッシオ・シルヴェストリンと、ダンスユニット「ちくは」を主宰するダンサー／映像作家の大脳理智によるユニットとして新作を発表。映像作品「CRACKERS#2」(2007)以来、2度目のコラボレーションとなる。

<http://newclear.jp/>



### scopic measure #10

**高嶋晋一「Pascal pass scale」** (新作インスタレーション作品)

会場：2Fギャラリー

身体と映像をめぐる思考をテーマに、旧作と新作を2つの展示ブースで対称となるように展示しています。非常に身近でありながら、直接的には知覚できないものを、私たちはどのように把握するのか。身体や空間を偏りのある扱い方しかできない状況に仮構することで、「世界の実在と自己の感覚、両者のいずれもが前提にならないのだとしたら、私たちはどのように思考を組み立てることができるのか」という問題について考えています。

「One foot on the moon part 4」  
2005 ビデオインスタレーション

### 高嶋晋一 / Shinichi Takashima

1978年東京生まれ。2002年武蔵野美術大学油絵学科卒業。2004年B semi Learning System of Contemporary Art 修了。ビデオによるインスタレーション制作やパフォーマンスを行う。2008年、マエストロ・グワント(四谷アート・ステュディオム最優秀アーティスト賞) 大賞受賞。現在、近畿大学国際人文科学研究所研究員。



## 山口情報芸術センター Yamaguchi Center for Arts and Media

【開館時間】10:00–20:00(夜間イベントのある日は22時まで開館)

【休館日】火曜日(祝日の場合は翌日) / 年末年始(12/29–1/3)

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7

Tel: 083-901-2222 Fax: 083-901-2216

<http://www.ycam.jp/> [information@ycam.jp](mailto:information@ycam.jp)



### アクセス:

#### 飛行機利用

【山口宇部空港まで】

・東京から1時間30分

【山口宇部空港から】

・乗合タクシー「空港エクスプレス」でYCAMまで 約1時間(前日18:00までの予約制 大隅タクシー Tel: 0120-31-0860)

・空港連絡バスでJR新山口駅まで 20分

#### 新幹線利用

【JR新山口駅まで新幹線のぞみで】

・東京から約4時間50分

・新大阪から約2時間10分

・広島から約35分

・博多から約40分

【JR新山口駅からYCAMまで】

・防長バス / JRバス 約30分、中国町下車すぐ

・JR山口線18分、湯田温泉駅下車 徒歩25分 / タクシー 5分

・JR山口駅21分、山口駅下車、徒歩25分 / バス10分(中国町が済生会病院前下車) / タクシー 5分

#### 自動車利用

・広島から 山陽自動車道で約1時間30分、防府東ICから30分

・福岡から 九州・中国自動車道で約2時間、小郡ICから25分